

第5回 2019年度埼玉県公立入試 出題傾向から考える「勉強と内申」

「入試開示点の結果から見える内申の重要性」

難関校に進学希望の生徒

■通知表の数値は差がつきにくいことが前提

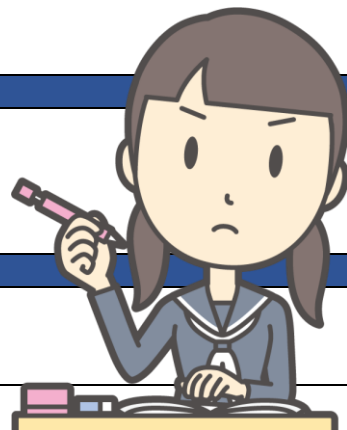
- ①定期テストでの高得点と入試本番での高得点を取ることが何より重要
- ②通知表の5科・9科の数値は常に高い数値を維持

中堅校までの高校に進学希望の生徒

■高校の偏差値が下がるにつれ、内申点の価値が増してくる

内申点の向上を意識して、北辰テストやその他模試の点数も上げていく

上記の内容から各学年で「この夏、何をすべきか」が見えてくる。



中学1年生

■1学期の復習を絶対にやる

現在習っているもの・授業を扱っているものが入試の基になる。

■通知表の数値(内申点)は大事なものと意識する

1年生の1学期の成績から見られていることを忘れない。

■家・塾での勉強時間を増やす

同じ中学校の中でも、周りの人にバレないように、毎日コツコツ勉強していて、テストで高得点を取る生徒がたくさんいる。そのような生徒はいずれ自分を脅かす存在になることを忘れないよう、自分もライバルに差をつけることができる存在になれるようにする。

中学2年生

■中学1年～中学2年の夏までに学習した範囲の復習を“夏”にやる

特に中2の後半は、学習量が急激に増えるので、それまでに必ず復習を完了するように勉強する。

■苦手科目を徹底的につぶすためにも、苦手科目の勉強の“時間を増やす”“回数を増やす”

苦手科目の学習を“いきなり10時間やる”のは無理。“毎日30分～1時間”机について問題を解くことが重要。

■毎日の学習を継続しライバルに差をつける

中学2年生は学校で中心的に活動することが増え、部活動も忙しくなります。いっぽう勉強面においては、特に数学・英語について学校での授業時間も長く、学習量が増えるため、差がつきやすくなります。そのため、数学・英語は毎日1時間、必ず勉強する時間を作りましょう。

中学3年生

■中1・中2の復習を今こそやる

夏までに目標を立て、中2までにやってきたことをもう1回振り返り、必要事項を暗記、問題を解きこむ。

■苦手分野を改善する努力をおしまない

北辰テスト・入試本番では極端に点数が低くなければ、合格する可能性は格段に上がる。そのため、苦手科目はどのテストでも平均点以上を取るとをまずは目標とし、目標を達成するごとにハードルを上げていく。

■中1・中2の復習をしたら、秋から本番までは過去問演習を中心に進めていく

まずは北辰テストの過去問演習、11月12月ごろからは私立・公立入試の過去問演習に移行していく。